

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	スポーツ文化課	担当課長	水野 義康	参加者氏名	
-----	---------	------	-------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	観光資源の魅力向上	
実施事業 (Plan)	事業名	パレオパラドキシア全身骨格化石復元プロジェクト			事業内容	令和4年6月に瑞浪市釜戸町で緊急発掘されたパレオパラドキシアのクリーニングを行い、復元レプリカを制作します。レプリカを展示や教育、市のPRに活用します。	
	事業期間	R4～R6					
	重要業績評価指標 KPI	指標	年間観光入込客数				
目標指標値		150万人					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	1	10	5	6	10050614	パレオパラドキシア緊急発掘・調査事業	7,763

2. 事業評価

							策定時実績(R3)	113万人	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	-	-	-	-	-	-	-	-	
R4	7,632	-	3,500	-	-	4,132	150万人	114万人	
効果検証	実施状況 (Do)	パレオパラドキシアの発掘を行い、クリーニング作業を開始し、産状レプリカを制作しました。また、今後の財源確保のためクラウドファンディングにて寄付を募りました。なお、標本は現在クリーニング作業及び研究を継続中で、発掘やクリーニングの様子はSNSやYouTubeで公開しています。							
	(Check)	実績値の分析	パレオパラドキシアのクリーニングは当初の予定通り進行し、令和5年3月には産状レプリカが完成しました。令和4年10月～12月に実施したクラウドファンディングの結果、345名の方から7,036千円の寄附があり、併せて発掘の動画はYoutubeで14,913件(令和5年5月2日現在)の視聴がありました。これらのことから、本事業に対する関心の高さが読み取れます。						
		問題課題	今後も計画通りにクリーニング作業を完了させる必要があります。また情報発信だけでなく、化石の保存性にも考慮したレプリカの制作方法や展示方法を考える必要があります。						
		得られたノウハウ	パレオパラドキシアの発掘からレプリカ制作の際の動画・SNS等による情報発信により、実施事業のPR方法についてノウハウを得ました。クラウドファンディングは、瑞浪市として初めて実施したガバメントクラウドファンディングであり、その実施方法等のノウハウを得ました。						
	具体的改善内容 (Action)	クリーニング作業を計画通りに進めます。また、常設展示室で実物化石と全身復元骨格をあわせて展示する(展示改修を行う)ため、化石の保存性や周囲のスペース確保等に配慮した展示方法を検討します。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	D	継続	令和5年度に調査報告書を刊行し、令和6年度に復元骨格(レプリカ)を制作します。また、パレオパラドキシアを有効に活用して出張展示、講座を実施し、瑞浪市の太古の歴史を紹介し、魅力を伝えます。国民文化祭関連事業である「みずなみ化石フェスタ」にて復元骨格などの展示と講演会を行い、さらに瑞浪市の魅力を発信します。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	農林課	担当課長	工藤 嘉高	参加者氏名	加藤 聖也
-----	-----	------	-------	-------	-------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	農林業・畜産業支援	
実施事業 (Plan)	事業名	農地中間管理事業			事業内容	農地の貸し手と農業の担い手のマッチングを行い、農地の集積を行うことにより、耕作放棄地の削減に努めます。 ※KPI指標 農地の集積率＝担い手への集積面積/ほ場整備済み農地面積	
	事業期間	H26～					
	重要業績評価 指標 KPI	指標	農地の集積率				
		目標指標値	78.0%				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	1 一般会計	6 農林水産業費	1 農業費	3 農業振興費	6010341	農地中間管理事業	95

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	37.4%	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	124		52		72		78.0%	47.6%	
R4	71				71		78.0%	48.7%	
効果検証	実施状況 (Do)	農地中間管理事業を活用した農地集積について農地所有者に周知するとともに、農地の貸出希望者と担い手とのマッチング作業を実施した。							
	(Check)	実績値の分析	営農組合等による大規模な集積がなかったことにより、集積率は微増であった。営農組織等が集積を希望するような優良農地が少ないことが原因である。						
		問題課題	ほ場整備実施済みの農地の大半は、既に担い手や土地所有者によって耕作されている。担い手の労働力は不足している現状であり、狭小・不整形といった農地は生産性も低いことから担い手への集積は困難となっている。						
		得られたノウハウ	集積率を増加させるためには、ほ場整備を実施し、優良農地を確保していく必要がある。また、新規の担い手を育成していくことも重要である。						
具体的改善内容 (Action)	農業委員会と連携して農地の貸出希望者と担い手とのマッチング作業を実施し、農地集積を促進していく。また、現在、優良農地を耕作している土地所有者に対して当該事業を周知し、5年後、10年後といった離農時の農地集積について説明する。加えて、ほ場整備や再ほ場整備について地域に情報提供を行うなど、優良農地の確保にも努めていく。								
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	C	継続	農地の貸出希望者と担い手のマッチング作業を行うことで集積率の向上を図るとともに、新たな担い手を育成していく。また、引き続き、ほ場整備後の大規模な集積も検討していく。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えない場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	警防課	担当課長	小栗晴紀	参加者氏名	渡邊義章
-----	-----	------	------	-------	------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標2 快適な暮らしを創造する			戦略	防災・減災体制づくり	
実施事業 (Plan)	事業名	消防団員入団促進事業			事業内容	消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律に即し、消防団の装備、教育訓練の充実及び処遇の改善を図ります。また、出会いパーティーや消防団協力事業所の増加等、活性化事業を実施し入団促進に努めます。	
	事業期間	通年					
	重要業績評価指標 KPI	指標	消防団員充足率				
		目標指標値	100.0%				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	消防費	消防費	非常備消防費	09010203	消防団員教育研修経費 他	278

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	86.0%	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	166					166	100.0%	80.6%	
R4	151					151	100.0%	77.3%	
効果検証	実施状況 (Do)	令和4年度消防団員数は383人で、前年度比5人減となり、充足率は77.3%であった。新型コロナウイルス感染症による行事の中止や縮小が相次ぎ、思うような加入促進活動ができなかった。令和4年度より報酬を見直すとともに、個人支給とした。							
	(Check)	実績値の分析	消防団新聞で入団啓発の記事を掲載したり、各分団で継続して団員募集を行ったりしているが、若年層の減少等の事情により、下降傾向となっている。						
		問題課題	若年層に対するPRが足りない。消防団員の家族以外も参加しやすい行事のあり方を考える。						
		得られたノウハウ	消防団新聞の発行方法を検討し、より多くの市民に見ていただくことで、新入団員の確保に繋がる。今後も魅力ある消防団にしてPRしていく必要がある。						
	具体的改善内容 (Action)	各種行事をSNSで発信し、情報が若年層に届きやすい環境を整える。また幼稚園等に行事開催のお知らせを依頼するとともに、親子で訪れやすい環境をつくる。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	D	継続	消防団新聞のみでなく、各種イベント等で消防団の魅力を市民に伝えて、入団を促し、消防団員の充足率アップを目指す。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えないような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	生活安全課	担当課長	工藤 雄一	参加者氏名	石原 伸也
-----	-------	------	-------	-------	-------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標2 快適な暮らしを創造する			戦略	防犯対策の強化	
実施事業 (Plan)	事業名	防犯灯設置促進事業			事業内容	防犯対策の一環として、自治会が新たに設置するLED防犯灯の設置に要する費用に対し、2分の1もしくは上限35,000円の補助金を交付します。	
	事業期間	R3~					
	重要業績評価 指標 KPI	指標	刑法犯認知件数(人口千人あたり)				
目標指標値		4.35件					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	総務費	総務管理費	自治振興費	02011126	防犯灯設置促進事業	700

2. 事業評価

							策定時実績(R2)	3.87件	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	326					326	4.35件	3.65件	
R4	272					272	4.35件	3.66件	
効果検証	実施状況 (Do)	LED防犯灯の設置については、令和3年度より市が設置する事業から、自治会の新規設置への補助事業に移行しました。本補助金制度については、各地区の区長会において丁寧に説明しています。							
	(Check)	実績値 の分析	刑法犯認知件数は横ばいだが、目標指標は達成しています。既存防犯灯のLED化を計画的に行ってきたことに加え、地区要望に基づきLED防犯灯の新規設置を行ってきたことにより、令和2年度までに市内に約4,500基のLED防犯灯の整備ができました。令和3年度からは地域が新規設置するLED防犯灯への補助事業とし、地域の防犯対策に繋がっていると考えます。						
		問題 課題	人口は減少しているものの、市街地における分譲住宅の増加や人流の変化等、防犯灯の新規設置が必要となる箇所は毎年一定数あります。継続して実施する必要があります。						
		得られた ノウハウ	設置工事を行う電気工事業者への制度説明も、事業を促進するうえで有用です。						
	具体的 改善内容 (Action)	各地区区長会において、制度の内容(補助対象経費など)を丁寧に説明します。また、補助金申請時においても、丁寧な対応に努めます。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	A	継続	犯罪や交通事故を防止し、安全で安心なまちづくりを推進するため、LED防犯灯を設置する自治会への支援を継続します。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	三浦 和恵
-----	-----	------	------	-------	-------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	観光資源の魅力向上	
実施事業 (Plan)	事業名	東濃圏広域観光PR事業			事業内容	県、東濃5市が連携し、東濃圏域の観光、産業、自然、歴史、文化などの魅力を国内外にPRします。	
	事業期間	H31～					
	重要業績評価 指標 KPI	指標	年間観光入込客数				
目標指標値		150万人					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	観光費	07010408	東濃圏広域観光PR事業	1,600

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	141万人	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	0						150万人	113万人	
R4	1,600	800				800	150万人	114万人	
効果検証	実施状況 (Do)	東濃5市と可児市、御嵩町で構成する「東美濃歴史街道協議会」で連携し、フォトコンテストの実施、広域ホームページ、パンフレットの作成、周遊旅行商品の造成を行った。							
	(Check)	実績値の分析	東美濃周遊旅行商品助成事業により、広域での周遊旅行商品が造成されたが、令和4年度は本市が組み込まれなかったため、観光入込客数の増加に繋がらなかった。また、その他広域で連携した活動は行ったが、入込客数調査箇所と直接結びついていない事業もあったため、実績値増加に繋がらなかったという要因もある。						
		課題	「東美濃」の認知度は低く、効果的な情報発信方法の検討が必要である。周遊旅行商品造成では特定の地域だけに寄与してしまっている。また、東美濃地域で効果的に誘客できているか事業内容の検討が必要である。						
		得られたノウハウ	東美濃地域での観光連携体を活かし、瑞浪市をPRすることはできているが、入込客数増加に繋げる事が難しい。東美濃としての知名度は未だ低いため、引き続き観光パンフレット等の作成やSNSによる情報発信の強化を広域で連携して行っていく必要がある。						
	具体的改善内容 (Action)	リニア開業を見据え、中京圏および首都圏双方へのPRを推進していく。また、今年度作成したホームページを効果的に活用していく。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	D	継続	広域で連携し、スケールメリットを生かしたPR活動を行っていくことは市単独で行うよりも効果的であると考えるため、継続して実施する。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	三浦 和恵
-----	-----	------	------	-------	-------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	観光資源の魅力向上	
実施事業 (Plan)	事業名	観光コンテンツ造成事業			事業内容	観光誘客の促進及び観光消費額の拡大を目指し、市内観光での体験型コンテンツを造成し、全国に発信します。	
	事業期間	R4~					
	重要業績評価指標 KPI	指標	コンテンツ造成数				
目標指標値		5件					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	観光費	07010430	観光コンテンツ造成事業	11,020

2. 事業評価

							策定時実績(R3)	-	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	-						-	-	
R4	10,997	5,484				5,513	5件	16件	
効果検証	実施状況 (Do)	プロポーザル審査にて委託事業者を決定。セミナー、ワークショップで事業者の意識改革を実施。インターネットにて資源の認知度調査、コンテンツ造成支援、OTAサイトでの販売支援を実施した。また、開発した体験を特集したWEBページ及びリーフレットを作成し、WEB広告など情報発信を実施した。							
	(Check)	実績値の分析	市内8事業者の参画があった。複数の体験型コンテンツを造成した事業者もあり、事業者自らが新たなサービスで稼ぐという意識改革にもつながった。短期間ながら、確実に誘客ができた。						
		問題課題	近隣県はもとより、県内でも認知度が低いことが大きな課題である。また、市内事業者単体ではそれぞれの活動にとどまってしまう。単年で大きな効果は得られないので、継続して事業を行い、市内事業者をサポートしていく必要がある。						
		得られたノウハウ	様々な業種や資源が観光コンテンツになり得る可能性が見えた。近隣市町村と比較して当市の認知度の低さが課題と判明した。						
	具体的改善内容 (Action)	市内事業者と協働で統一の観光コンセプトを創り上げ、コンセプトに沿ったコンテンツの開発、プロモーション活動を行うことで認知度向上を狙う。また、事業者同士の連携を支援し、相乗効果を狙う。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	A	発展	今年度はそれぞれの事業者が独自に開発したが、統一コンセプトを創り上げ、面で広がるようコンテンツのブラッシュアップや新規開発を行い、継続して取り組む。PR動画を作成し、認知度向上のために、より効果的なプロモーション活動を実施する。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとはいえないような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	三浦 和恵
-----	-----	------	------	-------	-------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	農林業・畜産業支援	
実施事業 (Plan)	事業名	瑞浪ポーノポークPR推進事業			事業内容	市の特産品である「瑞浪ポーノポーク」を使った料理イベントや取扱飲食店の啓発パンフレットの作成等により、特産品のPRを推進します。	
	事業期間	R3~					
	重要業績評価 指標 KPI	指標	瑞浪ポーノポーク(精肉、ハム、ソーセージ)年間売上高(きなめた瑞浪)				
目標指標値		19,115万円					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	商工振興費	07010218	瑞浪ポーノポーク取扱店PR事業	1,000

2. 事業評価

							策定時実績(R2)	14,812万円
投入コスト(千円)							KPI	
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値
R3	949					949	19,115万円	15,652万円
R4	817					817	19,115万円	17,245万円
効果検証 (Check)	実施状況 (Do)	グルメスタンプラリーを8月から10月の3か月間実施し、市内飲食店29店舗の参画があり、応募者総数690件であった。また、12月のバサラカーニバルでポーノポーク祭りとして市内飲食店6店舗が出店販売を行った。						
	実績値 の分析	スタンプラリーを継続開催することで、ポーノポーク及び取扱店舗のPRが実施できた。また、瑞浪ポーノポーク祭りをバサラカーニバルと同時開催することで、市外からの参加者に対してもPRすることができた。						
	問題 課題	スタンプラリーは恒例のイベントとして定着しているが、市外へのPR不足により、市外参加者が少ないことが課題である。						
	得られた ノウハウ	スタンプラリー参加者の分析結果から、特定の店舗に偏りが発生し、周遊を促せていないことが判明した。1店舗のみで応募可能な実施要項にも要因があると考えられる。						
	具体的 改善内容 (Action)	情報発信方法を検討し、PR強化を行う。また、スタンプラリーの参加要項を検討し、店舗周遊促進を行う。						
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)			
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由	
	事業効果	B	見直し (改善)	スタンプラリー事業において周遊を促せるよう実施要項を再検討し、継続実施する。				
事業評価	○							
総合戦略推進会議(意見)								

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	坂崎 慎一郎
-----	-----	------	------	-------	--------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	地場産業の活性化	
実施事業 (Plan)	事業名	中小企業販路開拓支援事業			事業内容	市内事業者の販売力強化事業として実施する展示会・見本市への出展及び見本市開催事業に要する経費を補助することで、新たな販路の開拓や販路拡大を支援します。	
	事業期間	R2～					
	重要業績評価指標 KPI	指標	参加企業数				
		目標指標値	70社				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	商工振興費	07010238	中小企業販路開拓支援事業	8,320

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	59社	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	5,665					5,665	70社	31社	
R4	7,375					7,375	70社	43社	
効果検証	実施状況 (Do)	令和4年度は対面式の見本市や展示会が本格的に再開され、会場はコロナ禍以前の活況を取り戻しつつある。出展企業の増加もみられ、引き続き出展経費の補助を実施した。							
	(Check)	実績値の分析	令和3年度と比べ展示会への出展機会、来場客、商談企業数、及び取引額も増加してきた。一方で事業者によってはコロナウィルスを発端とする様々な要因により、未だ展示会への出展が難しい状況が続いている。						
		課題	見本市等も再開し、経済活動も活況を取り戻しつつあるが、出展企業の固定化がみられる。						
		得られたノウハウ	展示会への出展を継続することで、コロナ禍での商品需要、トレンドを把握することができ、新商品の開発に繋がっている。展示会の様子の動画配信やWEBを通しての商品販売に注力することで展示会に来場できない方にもPRする機会が増えている。						
具体的改善内容 (Action)	多くの事業者に見本市への出展を促すため、販路開拓委員会が出展する事業に対して、一事業者あたり同一の見本市等への出店補助を5回までとする制限を実施した。また、販路開拓委員会の出展事業者の募集方法についても、事業者から要望を受け付けるだけでなく、広く多くの事業者に周知し、出展企業を募るよう募集方法の見直しを依頼した。								
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	D	継続	昨年同様コロナの影響により、新規の顧客獲得が困難な状況が続いている。それに加え、今後事業者が出展費を継続して負担できるか課題となるが、令和5年度からコロナの影響が緩和される状況で市内事業者の販路開拓を支援するためにも、今後も補助を継続していく。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	坂崎 慎一郎
-----	-----	------	------	-------	--------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	地場産業の活性化	
実施事業 (Plan)	事業名	地場産業振興事業			事業内容	地場産業の拠点として、産業振興センターに陶磁器販売所「ちゃわん屋みずなみ」を整備しました。ここでは、みずなみ焼や美濃焼などを販売し、地場産業の活性化と振興を図ります。	
	事業期間	H29～					
	重要業績評価指標 KPI	指標	窯業・土石製品製造業の製造品出荷額				
目標指標値		150億円					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	商工振興費	07010233	産業振興センター施設管理経費	21,950

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	139億円	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	21,857				2,820	19,037	150億円	141億円	
R4	21,094				2,665	18,429	150億円	9月頃確定	
効果検証	実施状況 (Do)	令和4年度から瑞浪市産業振興センターの指定管理者制度は第2期目となり、引き続き瑞浪陶磁器卸商業協同組合へ委託することとなった。令和3年度末に指定管理者の提案により、ちゃわん屋みずなみの案内看板を国道側に設置し、陶磁器販売所のPRに努めた。							
	(Check)	実績値の分析	令和4年度は、コロナ禍であったものの、産業振興センターの利用者数は前年度と比較しおよそ76%増加した。同様に、ちゃわん屋みずなみの来客数についても、マスコミに取り上げられたことや、案内看板等の効果で、前年度と比較しおよそ23%、また売上においても前年度と比較しおよそ24%増加している。設備の維持管理では、産業振興センターの高圧負荷開閉等、自動火災報知機等、及び一階ロビー照明の取替え、さらに無線LAN設置を行った。						
		課題	果籠り需要の増加や記録的な円安を背景に、状況対応ができる企業の業績は好調であったが、対面販売を基本とするちゃわん屋みずなみの売り上げは苦戦している。令和4年度は、マスコミ効果により売り上げを伸ばしたものの、自発的な販売促進効果ではなく偶発的な外的要因に頼っている問題がある。						
		得られたノウハウ	季節のイベントの装飾や特設展示など、興味を引く売り場づくりを心掛け、さらには、マスコミに取り上げられた効果もあり、コロナ禍の影響でイベントなどの集客が行えないなかでも、従来の施設利用者数を取り戻しつつある。						
	具体的改善内容 (Action)	案内看板やSNSを活用した自発的な販売促進を強化する。また、商業組合や工業組合をはじめとする陶磁器業界が今まで以上に団結し、商工会議所や観光協会といった関係団体とも連携し、一丸となって地場産業の活性化を模索する。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	C ※前年度実績値による評価。	継続	陶磁器だけでなく市内の物産品を取り扱い、地場産業の活性化に寄与してもらいたい。また、実施するイベントについては、例年の形式にとられないものでの開催を検討してもらいたい。					
事業評価	◎		会議や研修における会議室利用は回復していないため、一層のPRを図ってもらいたい。						
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	豊崎 忍	参加者氏名	坂崎 慎一郎
-----	-----	------	------	-------	--------

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標3 元気な暮らしを応援する			戦略	公共交通システムの強化	
実施事業 (Plan)	事業名	デマンド型交通運行事業			事業内容	地域との協働のもと、多様な交通手段を検討し、交通弱者に配慮した交通施策を実施します。	
	事業期間	H28～					
	重要業績評価 指標 KPI	指標	デマンド交通年間利用者数				
目標指標値		4,500人					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R4予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	商工総務費	07010105	デマンド型交通運行事業	7,224

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	3,072人	
投入コスト(千円)							KPI		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R3	6,309					6,309	4,500人	2,009人	
R4	6,457					6,457	4,500人	1,933人	
効果検証	実施状況 (Do)	制度開始以来、年々利用者数は増加していたが、令和元年度以降はコロナ禍もあり、大湫地区及び日吉地区において利用者の減少が続いている。一方、釜戸ルートは令和3年度以降もコロナ禍以前より稼働率及び乗合率が増加しており、今後も利用者数の増加が見込める状態となっている。また、観光利用の利用者数についても、コロナ禍以前の人数まで回復している。							
	(Check)	実績値 の分析	利用者数について、令和3年度は増加したが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症等の影響を受け減少した。ただし、釜戸ルートに関しては、令和2年度795人に対し、令和3年度は919人、令和4年度は883人と利用実績と利用者が増加傾向にある。しかし、大湫・日吉東部ルートについては、令和4年度の実績で利用者401人、稼働率は20%を割り込む月も多く、未だに利用者が増加する見込みがない状況である。						
		問題 課題	大湫～日吉東部ルートは、利用者の減少が続いている状況であり、稼働率は30%を割り込んでいる。国庫補助の要件が稼働率30%以上となっているため、他の交通手段も含めた抜本的な見直しが必要である。						
		得られた ノウハウ	稼働率が高い釜戸ルートでは、一便あたりの乗り合わせが多いという結果が出ている。主な要因としては、地元でデマンド交通が根付いてきたことや広報周知等が行き渡っているものと考えられる。今後は、社会活動が再開され、外出する機会が増えると予想されるため、制度説明会等より一層の広報活動が必要である。						
	具体的 改善内容 (Action)	アンケート結果により、デマンド交通の登録をしているが利用をしていない方が一定数いると分かったため、令和5年度はデマンド交通無料券(2乗車分)を配付することで利用するきっかけを提供し、継続的な利用につなげていきたい。また、地域公共交通計画の策定にあたり、大湫地区等利用の少ない地区に対して、地域の交通需要の聞き取りを実施し、地域にとって最適な公共交通の方向性を計画に定める。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	D	見直し (改善)	広報等での周知に加え、区長会等で制度説明を実施していく。令和5年度は、利用促進のため、登録者に対し無料乗車券を配布する。また、令和5年度に策定する瑞浪市地域公共交通計画において、稼働率が減少傾向にある大湫地区の課題を解消するよう設定等し、事業に取り組む。陶地区については、コミュニティバスの利用者数が少なく、デマンド交通の導入を希望する声が出ているため、計画策定時に一体的に検討していく。					
事業評価	○								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言い難いような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針(目安)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した